熱いご意見ありがとうございます。

今年の春から「森林保全活動の企画特集レポート」を展開したところ、百通以上のご意見をいただきました。
今回はその中で、特に7名様のご意見を代表して掲載いたします。

森の価値はお金だけでは計れない。

公園も森林も、そこに存在するだけで深い意味がありますが、その意味は経済的価値ではありません。
森林も全部伐採して売れば一時的には経済的価値が生じますが、それでおしまいです。
森林も存在することで、酸素を供給してくれるだけでなく、海を豊かにしてくれたり、保水能力を高め、水害を防いでくれるなど、実はどれ程の価値を生んでいるか計り知れません。
「カネ、カネ」といっている人たちを納得させるためには、これらを経済的価値に計算し直して見せることが必要かもしれません。
「所有」でなく「存在」の視点が環境問題を考える上で大切ではないでしょうか。

松江市　男性

木に興味をもちはじめました。

今年、農林高校に入学しました。
毎日、作物や動物などに接し新しいことの発見だらけです。
自然(天候など)など、今まであまり考えていなかったのに、今は天候が気になって仕方ありません。
私の母は山間地の生まれです。
小さい時から、木登りや探検ごっこをして遊んだそうです。
今でも母の実家に遊びに行くと、涼しく何度も気温が低いように感じます。
木を大切に守っていきたいです。
この新聞の森との生存を求めてのコーナーを読んで若い私たちの力や考えが必要なんだと実感しました。
校内に植えてある木の名前にも興味がわいてきました。
私は、たいこ部で、たいこのバチやひようし木を大切にしています。
まだはっきりと将来の道は決めていませんが三年間で、しっかりと進路についても学んでいきたいです。
私の弟は車イスにのっています。
お散歩が大好きです。
この夏も木のかげなどさがして、休憩をとりました。こんな場所がもっともっと増えてくれること願っています。

出雲市　女性

災害から守るため、森をもっと大切に。

今年は1972(昭和47)年以来の大きな災害が7月にありました。
県内でも死者があり、また何億円もの被害があり、今だに立ち直っていません。ここまで大きな災害になったのも、開発で山林をなくし、また、伐採した後、植林せずにしていた結果、これまで森林のもっていた保水力等が落ちたためだと思う。
私たちの住む山陰は多くの林野を持っているのだから、この貴重な財産を守っていくべきだと、今回の特集を読み強く感じました。
2度とこのような大災害があってはならない。
森林と共生していくつもりで。

雲南市　男性

木はやっぱりやすらぎます。

三年前、地元産の杉の木を使って自宅を新築しました。木の香りがプーンとして心がやすらぎます。廃棄物として捨てられていたかんなくずや間伐材が、新たな燃料になるという記事を見て、また森林との共生するすばらしさを感じました。人の心にやすらぎを与えてくれる森の木のパワーを感じます。

鳥取市　女性

帰省先で記事をみました。

夏の間、帰省していて連載中の“森との共存を求めて”拝見しました。子どもの頃、間伐材にする目印をつけるため伯父について、スギ林に行ったこともありました。
森の大切さは多少知っているつもりでいましたが、「複層林を育てる」などわかりやすい、きれいな写真入りの記事で、面白くとてもためになりました。小学校高学年くらいから成人まで、広い年令層に読まれる良い特集と思います。
ボランティア知識を持った上で、森林や自然を守る活動に参加していけるような方向性をもって、今後も企画して下さるようおねがいします。

日野郡日野町　女性

少しずつですが、着実に森林保全活動を続けています。

森が持つ本来の機能を育て、維持して行くことが、将来の私達の生活に、どれだけ大切か…どれほど大変なことか…地球の温暖化防止対策、水と酸素を作り出す過程への拘わり方などについて、近年あらゆる分野で再確認され、森林保全の輪を広げる活動が展開されております。
私は平成7年、手術を受け、早期回復を願いリハビリの一環として数年に亘り、総合運動公園を約1万歩を目標にジョギングを続けておりました。
その間、公園内の松林では「フジ」のつるが樹木に巻き付き降雪・強風で一度に数本の松が、折損・倒壊する個所が散見されると共に、遊歩道の一部では雑木・竹が繁り昼でも薄暗くジョギングを敬遠されるなど、荒れ放題になっている現状を目にし、大きなショックを受けました。
そこで公園の管理者に申し出て、競技施設と外周遊歩道路に挟る松林の一部(0.7ヘクタール)について、枯松・雑木の伐採・倒木の整理、笹竹・雑草の下刈り、また自然に生えてきた松の芽(小さいものでは2~3センチのものから)の成長を助けるなど美しい松林の再生に取り組んできました。
現地はほとんどが急斜面で天候により足元が支配されるので、作業は5月から10月までの間、年間約50余日実施し今年で7年目を迎えます。
この企画をみて、森(広葉樹林)と若干異なるが「豊かな緑を子どもたちの未来へ!」の活動の一端を担っているのではと再認識し、1年でも永く続けたいと考えています。
このころ、居住地付近で「フジ」や「カズラ」などのつるが繁茂し、また「竹」が山頂まで侵犯し荒廃していく様は、見るに忍びなく残念でなりません。
この運動が一人でも多くの人に理解され、より一層発展して行くことを願っております。

松江市　男性

森が人を支えきれるように、人が森を守ろう。

倉本聰氏の「森林を守ろう!情熱講演会」を読み痛く感心した。
その一方で私の所有する山林のことを思った。
(私の)怠慢で山が荒れているからである。
二十アールの山は松と杉が枯れ、雑木が主で竹が蔓延り、間伐も下刈りもままならぬ。
管理が行き渡らない。
しかし、この原因と対策が今回の倉本氏の講演で分かったのである。
氏の話が説得力を持つのは、卓越した知識・技術の外に、北海道富良野で生活し実践しているからだ。
森林を守ることが、地球と環境を守り人の暮らしを守ることに連動する。その実現には実践が必要と明確に説かれる。
全て具体的である。
「温暖化という言葉では済まない過去の地球高温化を、現在は圧倒的に短い期間で人為的につくろうとしている。恐ろしいことだ」、素直に深く感銘を受けた。皆伐で地下水が枯れる、「文明の前に森林があり、文明の後に砂漠が残る」その通りである。
「木の葉は貴重で、急激な水の流出を食い止め、森の夏は涼しく冬は暖かく保つ」このことは私も実感している。
ここで、私の山のことを思った。
最近、水の流出量が減ったからである。
樹々が減りその樹勢が弱ったことが原因と思う。前述の通り、植林・間伐・下草刈り等の管理が疎かとなりそのツケが、水量の減少に回ったと思うのである。
自然は人を見ているのである。
拙い体験を記したが、人と自然との連鎖を実感する。
森林が人を支え、人は森林を守り育む義務が生ずる。
倉本氏は、地球を支えている熱帯林があと百年で消滅すると警告を発している。
石油類も枯渇へと向かっている。
四十六億年の人の歴史が危うい。
しかし、人には知恵と英知がある。
今こそ結集して難局を打破したい。
その力は十分にある。
倉本氏の講演でその可能性を実感した。
有意義な話に感謝している。
森林を守る勇気が湧いてきた。

出雲市　男性

森林保全活動レポート
その⑰

ふるさとの間伐材にこだわり、工夫を凝らした「ものづくり」をしています

2

3

4

豊かな緑を子どもたちの未来へ!
森林を守ろう!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

「森の手入れがなかなか行き届かないうちに、マツクイムシの被害を受けてしまった島根県石見地方の山は、荒れる一方でした。しかも、安い輸入材の影響で、国産材は積極的には活用されていません。この流れを少しでも変える必要がありました。『小さいことでもいいから、できることからやろう。』と決意したんです。」
島根県西部山村振興財団が発足したいきさつを、事務局長である松本さんはこう説明しました。
「そのためには、間伐材の利用拡大が急務でした。間伐材を利用した商品が増えれば、森の手入れもはかどります。私たちは、島根県の間伐材を利用した家具や日用雑貨、床材や物置などを60種類も試作し、販売しています。
ふるさとで育てられた木が、地元の職人の手によって、無駄なく活用されるようなシステムをつくりたい。それが、山や空気や水をきれいにすることにつながるのです。」
松本さんの願いは、ふるさとの美しい景色を復活させる熱い想いでもあるのです。

1.島根県産のヒノキの間伐材だけで作られた学習机といす。
背もたれの下の曲がっている部分もすべて木でできている。
2.「林業の未来に明るい活力を」と願う松本事務局長。
3.しっかりとしたつくりのプランターカバーも材料は間伐材。
4.おふろに浮かべて香りが楽しめる「ひのき玉」。
これも間伐材から生まれた。

今回の森林保全活動レポートその⑪に登場する

財団法人 島根県西部山村振興財団

1995(平成7)年に、地域資源を活用した商品開発を通じ、島根県西部の山村振興をはかるために発足。間伐材や広葉樹などを活用した家具、建材、日用雑貨の試作、試販をおこなっています。
連絡先は〒697-1211島根県浜田市弥栄町長安本郷399-1 松本事務局長まで
TEL.0855-48-2332 FAX.0855-48-2668
e-mail sanson@iwami.or.jp
ホームページ http://www.iwani.or.jp/sanson/

森林を守ろう!山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん
(10月31日現在)
※50音順

鳥取県
NPO法人　賀露おやじの会(鳥取市)
NPO法人　サカズキネット(倉吉市)
NPO法人　とっとり希望化計画21(鳥取市)
広葉樹文化協会(鳥取市)
財団法人　南部町地域振興会(南部町)
杉の雫・吟醸の会(智頭町)
大山横手道上ブナを育成する会(米子市)
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
トトリネット(米子市)
日野川の源流と流域を守る会(日野町)
丸山生産森林組合(伯耆町)
三朝温泉かじか蛙保存研究会(三朝町)
森っ子倶楽部(鳥取市)

島根県
出雲市林業振興協議会(出雲市)
NPO法人　緑と水の連絡会議(大田市)
NPO法人　もりふれ倶楽部(松江市)
財団法人　島根県西部山村振興財団(浜田市)
里山を育てる会(松江市)
しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市)
薪ストーブ同好会(松江市)
松江ネイチャーゲームの会(松江市)
木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)
森の仲間(出雲市)
遊木民倶楽部(益田市)

特別協賛
山陰中央新報社・新日本海新聞社

特別協力
凸版印刷株式会社

この広告に関するお問い合わせは事務局まで
山陰合同銀行 地域振興部内
島根県松江市魚町10 〒690-0062
TEL.0852-55-1820

みんなで森を守ろう!